2020公共交通シンポジウム「アフターコロナの地域公共交通」

アフターコロナを見据えた交通事業者のCXとDX

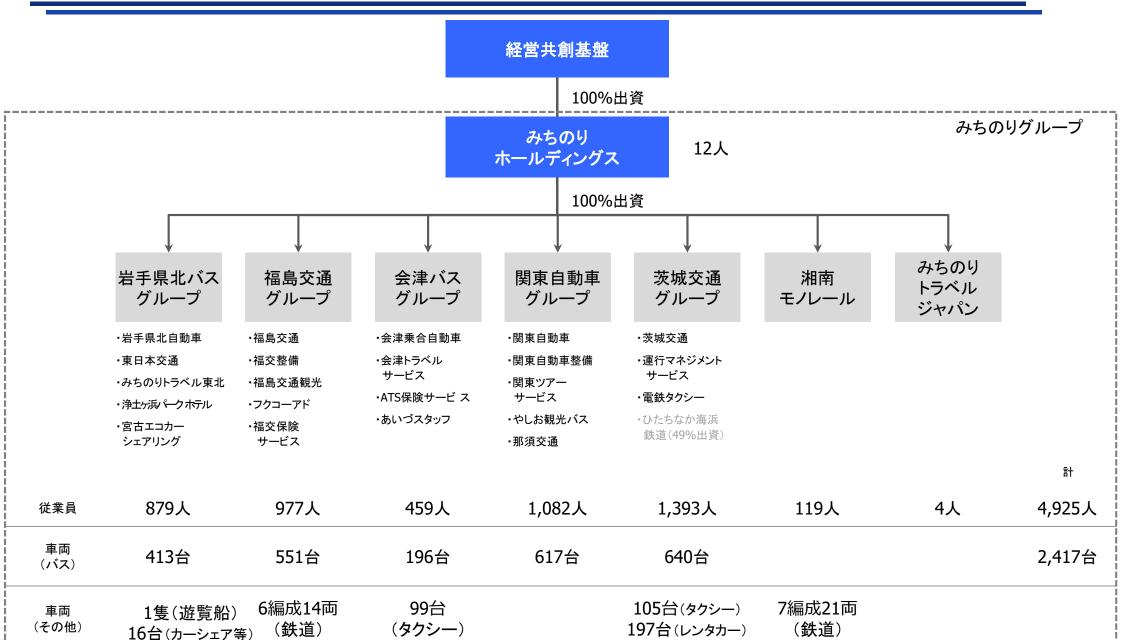
2021年3月3日

株式会社みちのりホールディングス 代表取締役グループCEO 松本 順



みちのりグループ





事業内容



観光バス



ロープウェイ



遊覧船



路線バス



タクシー



交通







モノレール

運転士達



整備





観光·旅行

車両整備の風景





類型と地域内統合





縦串・横串のグループ経営





新型コロナウイルス感染による社会の変化



コロナで大きく落ち込んだ公共交通利用

2021年1月の輸送人員・稼働率の前年同月比※

輸送人員 航空 国内線 :75%減

新幹線(12月)*:55~60%減

高速バス :60%減

路線バス : 28%減

タクシー : 45%減

貸切バス :64%減 稼働率

今後の利用者数

利用者数の増減は感染状況次第だが、 100%までは回復しない

- ✓ リモートワークの定着
- ✓ オンライン授業の継続
- ✓ ネット通販の拡大
- ✓ オンライン診療の推進

アフターコロナの新しい生活様式

リモートワークの定着

地方移住や二地域居住

企業の地方移転

大都市集中から 地方分散への好機 地方での移動需要が拡大

- > 地方都市の圏域内移動
- 地方都市と大都市間の移動

組織・事業構造改革

IB

年功序列 能力より忠実 秘密主義 労組との軋轢 経営(決定者)不在

オーナーによる搾取

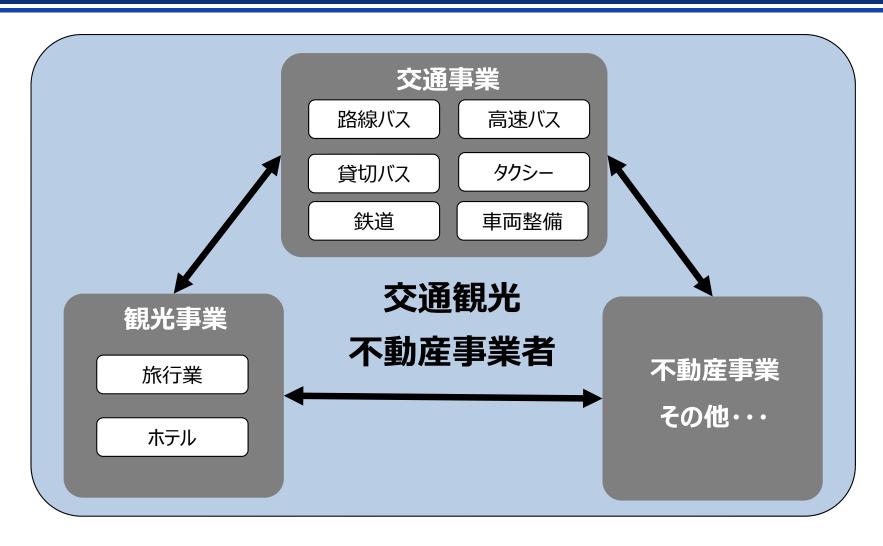
成り行きまかせ プロダクト・イン 営業はプルのみ 従来の仕組みを守る 価格固定 設備投資回避 新

人事評価制度導入 フェアな人事・抜擢 方針の共有と表明 情報共有 労使協調(適切な労働分配) 決める経営者 調達の最適化

> 事業戦略の明確化 徹底的PDCA 行政への意見発信 市場性重視 プッシュ営業も 仕組みを改善する 価格最適化 EBITDA重視経営 設備の発展を指向

CXの対象事業





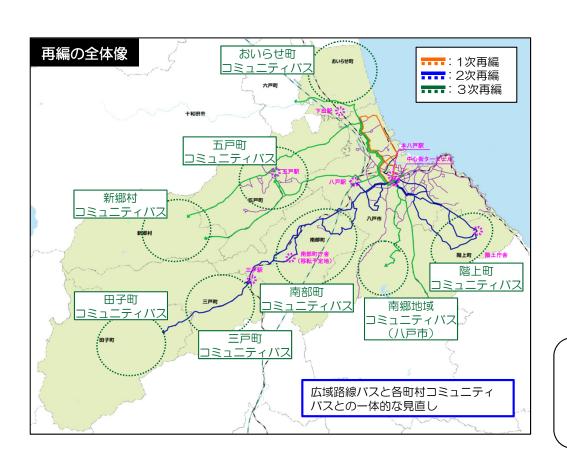
ローカルな公共交通ネットワークは、交通観光不動産事業者の 内部補助構造によって維持されているため、全事業のCXが必要

八戸圏域における路線再編



- ◆ 南部バスと八戸市営バスの重複運行区間において、2008年から等間隔運行・共同運行を実施
- ◆ 八戸圏域地域公共交通再編実施計画を策定し、自治体とバス事業者が協力して段階的な再編を実施
- ◆ ICカードの導入検討などのデジタル化も並行して実施

八戸圏域地域公共交通再編実施計画(2019年3月国交大臣認定・2020年3月計画変更)



【段階的な再編】

1次再編:八戸市内の路線バスの再編

2次再編:複数自治体をまたぐ広域路線バスの再編

3次再編:各自治体のコミュニティバスの再編

【複数の関係者】

自治体

八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町 階上町、新郷村、おいらせ町

バス 事業者

ハ戸市営バス、十和田観光電鉄、 南部バス(岩手県北自動車南部支社)

- データに基づく再編案をバス事業者から積極的に提案
- 関係者間での協議により、利便性と事業性のバランスの取れた再編内容を検討

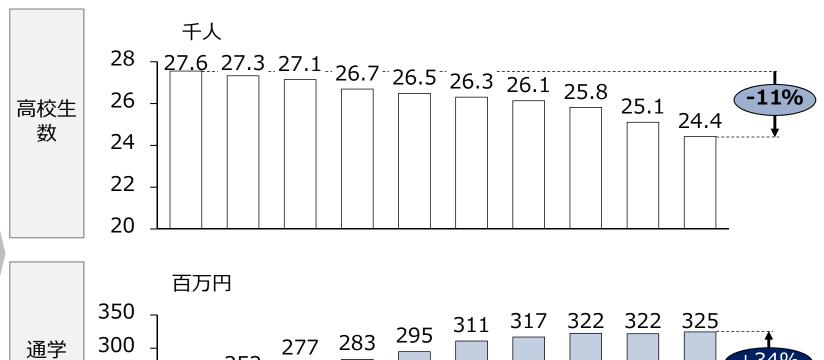
通学定期券の販売強化

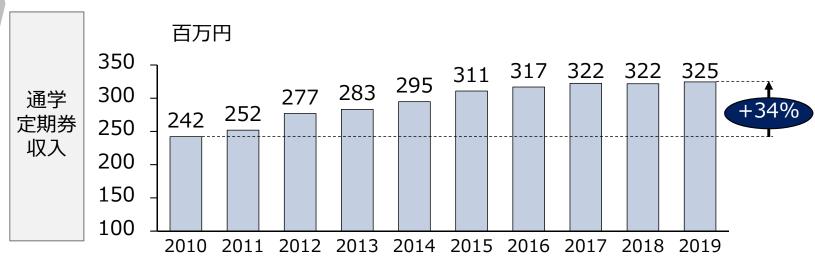


施策

エリア内高校生数/通学定期券収入

- ✓ 入学案内書に バス定期券の 申込書を同封
- ✓ 校内で定期券の出張販売を実施





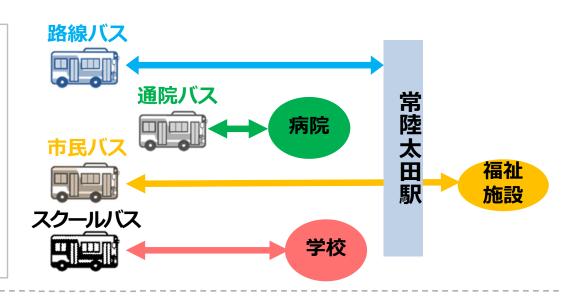
路線バスへの混乗



◆ 運営主体の異なる各々のバスを路線バスに統合し乗車密度を改善

統合前

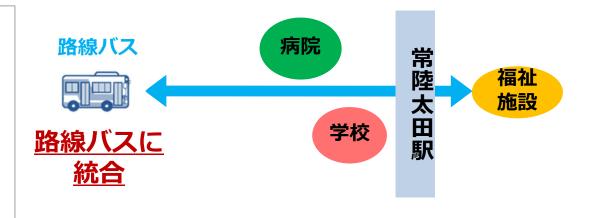
- 路線バス、コミュニティバス、 無料通院バス、スクールバスが 重複して運行
- 運行日、ダイヤ・本数、運賃体系はバラバラ



混乗化

統合後

- 各バスを路線バスに統合して、 平日は毎日運行
- 連賃は分かりやすい3段階制 (200円、300円、500円)に変更



関東やきものライナー



- ◆ 陶芸文化で有名な近接する笠間市・益子町と東京を結ぶユニークな高速路線を新設
- ◆ 東京からの観光目的と地元住民の生活目的による混乗

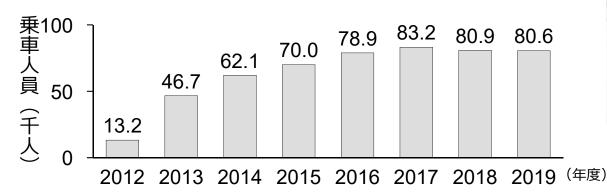






<u>秋葉原⇔笠間: 片道運賃1,650円、益子: 2,150円</u>

運行開始時:4往復 ⇒ 2019年:平日6往復・土日祝7往復



陶芸産地の笠間・益子





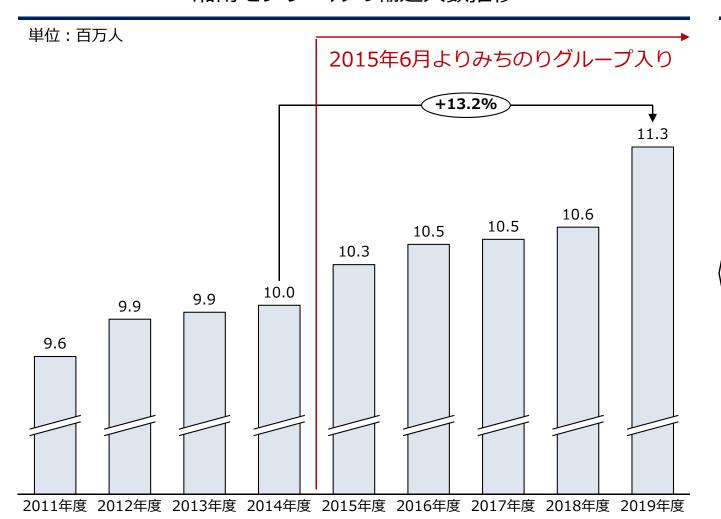
湘南モノレールの取り組み



各種マーケティング施策の実施により、輸送人員は関与前に比べ13.2%増加

湘南モノレールの輸送人数推移

みちのりグループ入り後の施策



マーケティング・積極的な情報発信

バリアフリー化の推進

江の島駅ビルの大規模リニューアル

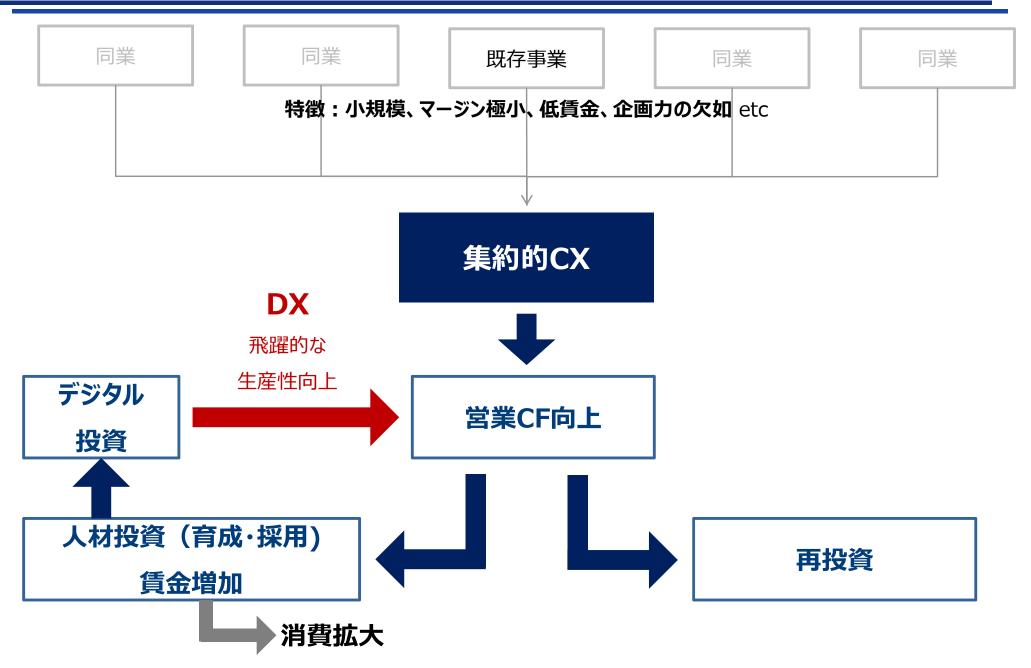
ICカード導入

ダイヤ改正 等

1. 2017年度までは4~3月期、2018年度以降は10~9月期

CXそしてDX





バス事業のDX



MaaS

バスロケーションシステム・ リアルタイム検索

ICカード・キャッシュレス決済

ダイナミックルーティング

ユーザビリティの向上

自動運転

電気バス・ エネルギーマネジメント

交番組みの最適化

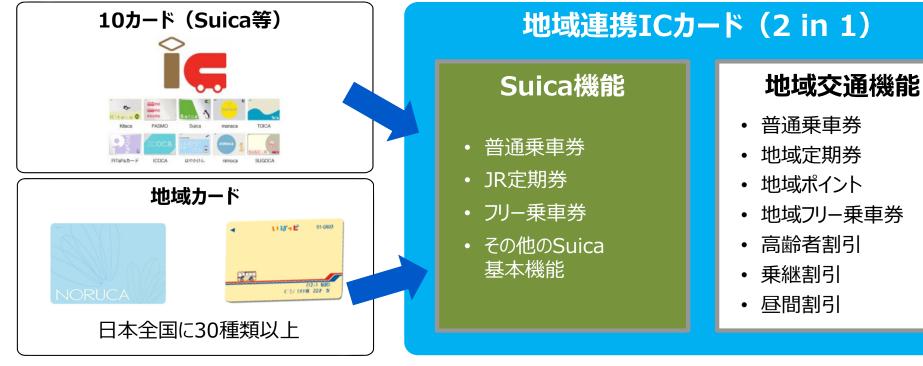
オペレーションの改善

社会課題解決・生産性の向上

地域連携ICカード



◆ 新たに地域連携ICカードが2021年3月に栃木でサービス開始。



2021年3月 サービス開始



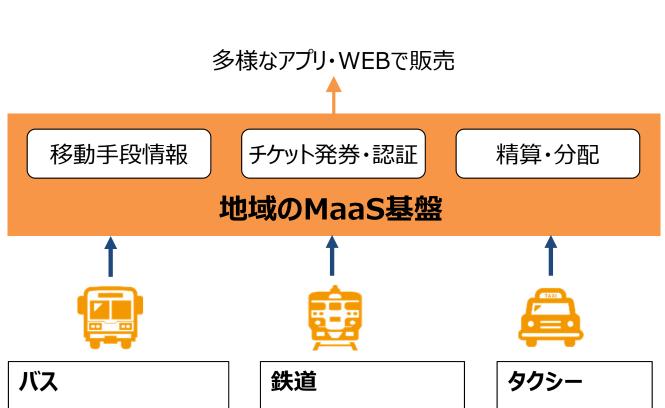
栃木の地域連携ICカード「totra(トトラ)」

- ▶ 全国交通系 IC カード(10カード)との相互利用が可能。
- ▶ 「totra」1 枚で、バスの定期券と JR 東日本 Suica エリア内の鉄道定期券を発行。
- ▶ 運賃に応じた「交通ポイント」や宇都宮市の事業として高齢者等に「福祉ポイント」を付与。

ひたちMaaS



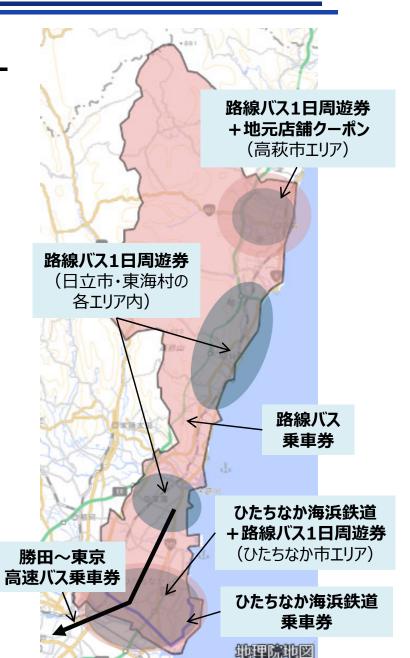
2020年度実証内容



- 高速バス 勝田~東京
- 路線バス
- ひたちBRT 中型自動運転バス

• ひたちなか海浜鉄道

• AIデマンド



ひたちBRT中型自動運転バス走行実証



走行予定ルート(青線:実車/赤線:回送)



2018年度実証

- 2週間の試験実証
- 無償運行
- 大甕駅~おさかなセンター(約3km)
- 1日8便
- ・ 小型バス (着席定員8名)
- 信号協調/人感センサー
- 体験モデルアプリの提供

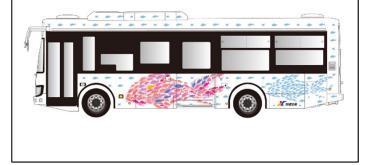




自動運転車両のカメラやセンサー

2020年度実証(11月30日~)

- ・ 4か月間の長期実証
- 有償運行
- 常陸多賀駅~おさかなセンター (約10km)
- 平日8便/休日6便
- ・中型バス(着席定員25名)
- 路側センサーによる自動運転車 両との協調
- ・遠隔監視装置による走行状況の 確認
- MaaSアプリ、AIデマンドとの連携

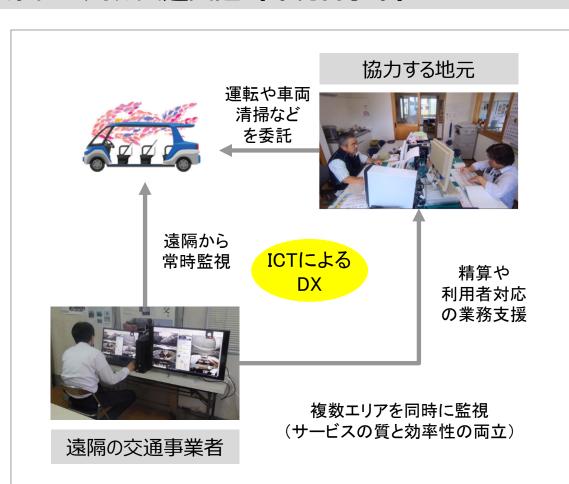


自動運転(ラストワンマイル)



グリーンスローモビリティによるラストワンマイル交通実証(環境省事業)





ラストワンマイル型の自動運転サービスへ展開

会津バスのダイナミックルーティング

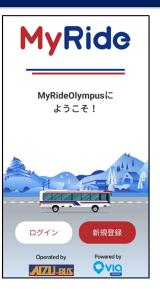


- 会津オリンパスのバス通勤者を対象。出勤と退勤で定時定路線便と選択利用可能。
- ▶ 利用者は専用アプリで予約、SMSで予約確認通知、アプリで乗車場所まで案内、現在位置等表示。
- ▶ 営業所で車両別の運行情報を把握。運転士はタブレットでルート、乗降場所・乗降者情報を確認。

運行エリア(青は定時定路線便のルート)



利用者用アプリ









運転士用アプロ





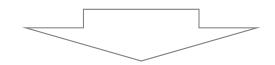


事業者へのメッセージ



既存の事業者は、公共交通のサステナビリティ確保のために 新しいモビリティサービスの実装に挑むべきである。

できないのであれば、新しい事業者の参入を許容せざるを得ない。



その前提としてCXが必要な場合は多い。 変化を喜んで許容する組織づくりと、生産性の向上が必須である。 CXにはカネはあまりかからない。DXにはカネがかかる。